

～人権が尊重されるまちをつくらう～

～身近な生活の中から学ぼう～

2023.6.21

第80号



人権・同和教育だより

丹波篠山

発行

丹波篠山市
人権・同和教育研究協議会
TEL・FAX 079-593-1260
http://t-s-doukyou-hr.jp
〒669-2734 丹波篠山市宮田240
丹波篠山市役所 西紀支所3F
年3回発行 6・10・2月

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会 2023年度活動計画について

5月20日(土)に「丹波篠山市人権・同和教育研究協議会 第25回定期総会」を開催しました。議案は2023年度活動方針および事業計画・予算を含め、すべて承認されました。

基本方針

1. 我が国の社会に今なお存在する部落差別をはじめ、あらゆる人権課題の解消を図り、すべての人の幸せにつながる「人権尊重のまちづくり」を推し進めます。
2. 「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」等、人権関係法令の趣旨を踏まえ、人権課題の解決と人権文化の確立をめざす市民、事業者、団体、機関等と広く連帯し、差別のない共に生きる社会をめざします。
3. 人権・同和教育の学習活動の場を充実し、差別を許さない市民意識の醸成、人権意識の高い人づくり・地域づくりに努め、こころ豊かな共に生きる市民社会をめざします。

活動方針(要旨)

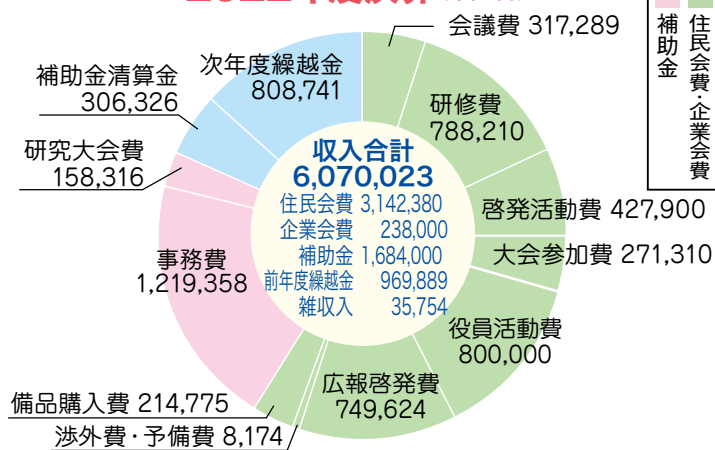
丹波篠山市人権・同和教育研究協議会は、発足以来「差別の現実深く学ぶ」ことを基本理念として、同和問題をはじめ、あらゆる人権課題の解消と人権文化の確立をめざして取り組んできました。

しかし、私たちの社会は、高度情報化、少子高齢化、産業構造の変化やそれに伴う経済格差の拡大等により、貧困、虐待、DVやハラスメント、LGBTQ+など性的マイノリティへの無理解、ヤングケアラー問題等々解決すべき多くの人権課題が生じています。また、情報化社会はコロナ禍においても一気に進みました。インターネット上では、簡単に差別が広がり、偏見が増幅され、より複雑化・多様化・悪質化した人権課題を起こしています。さらに、今私たちは、気候変動や差別・貧困・人権問題等多くの地球的課題を抱え、次の世代に繋いでいくためにも「だれひとり取り残されることがない社会の創造」を基本理念としたSDGs(持続可能な開発目標)の推進に取り組まねばなりません。また、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻には、「戦争は最大の人権侵害」であるとの立場から、多くの人たちの悲しみや苦しみに思いを寄せ「平和の大切さ」「命の尊厳」について考えなければなりません。

私たちは、本年度も同和問題をはじめ多様化・複雑化した様々な人権課題の解消をめざし「誰もが幸せを実感できるまちづくり」「誰もが自他の人権を尊重し、自分らしく生きることができるまちづくり」の実現に向けて全力で取り組みます。そのためには、誰もが人権課題について正しく理解し、自分事として捉えることが大切です。研修や啓発の在り方を、より参加しやすく効果的なものとなるよう工夫し、人権・同和学习への関心と理解を一層高めていきたいと思ひます。

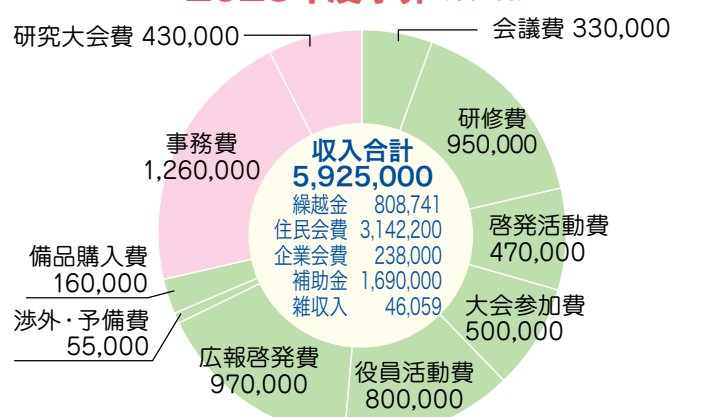


2022年度決算(単位:円)



※補助金は、市からの補助金8,934,000円より人件費7,213,150円を除いた事業補助金です。

2023年度予算(単位:円)



※補助金は、市からの補助金8,940,000円より人件費7,250,000円を除いた事業補助金です。



会長就任にあたり

会長 **五十山田 潤**

2023年度会長を務めさせていただくこととなりました五十山田です。皆様方には日頃より丹波篠山市同教の活動にご支援ご協力をいただいておりますこと心より感謝申し上げます。

私たち市同教は「人権尊重のまちづくり」をめざし、同和問題をはじめ様々な人権課題の解消に向けて取り組んでいます。しかし、コロナ禍の3年間に於ける急速な情報化や社会情勢の変化により、SNSを悪用した誹謗中傷、LGBTQ+(性的少数者)の人たちへの無理解による偏見、DVや子どもへの虐待等、より多様化・深刻化した人権課題が発生しています。

市同教では、これらの人権課題への解消に向けて、まずは課題について正しく知り、自分事として捉えていただくことを願って学習の場を提供しています。市民の皆様が参加しやすく効果的な学習活動や啓発活動の推進に努め、誰もが自他の人権を尊重し、自分らしく生きることができるまちづくりをめざします。

皆様のご健康をお祈りいたしますとともに、丹波篠山市同教へのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

「人権・同和教育セミナー」受講のお知らせ

差別解消のためには、「差別の現状」「差別を生む社会の仕組み・構図」「差別と抗いながら生き抜いてきた人の生き様」等を正しく知る、正しく理解することが大切です。丹波篠山市同教では、人権・同和学习を深める場として、そして、差別をなくす実践力をつけるために、1年間にわたる連続講座を企画しています。人権問題は複雑化、多様化していますが、部落差別の現実をみると社会の矛盾が見えてきます。部落差別について学ぶとあらゆる人権課題が見えてきます。その解決のために、人権・同和学习を深め、みんなで「人権尊重のまち 丹波篠山市」をめざしましょう。

参加費：無料(原則は5回連続受講。ただし都合で選択可)

会 場：丹南健康福祉センター 研修室(予定) ※第1～3回セミナーは四季の森(東館)1階大会議室です！

申し込み締切り：7月21日(金)としますが、随時、市同教までお問合せください。

※市同教ホームページからも申し込み用紙をダウンロードできます。

	実施予定日	演 題	講 師
1回	8月5日(土) 14:00～16:00	「水平社宣言と日本国憲法をつなぐもの」	元大阪市立大学教授 上杉 聡さん
2回	9月2日(土) 14:00～16:00	「人の世に熱と光を —水平社創立の思想に学ぶ—」	水平社博物館 館長 駒井 忠之さん
3回	9月30日(土) 14:00～16:00	「無関心でいられても、 無関係ではられない人権問題」	反差別・人権研究所みえ 事務局長 松村 元樹さん
4回	11月3日(金) 14:00～16:00	「部落差別の現状と人権教育・啓発の課題 —部落差別をどう語り、伝えるのか—」	ひょうご部落解放・人権研究所 所長 石元 清英さん
5回	2月3日(土) 14:00～16:00	「部落差別と女性差別の交差 —部落女性の解放運動からみえる私たちの社会—」	近畿大学 人権問題研究所 教授 熊本 理抄さん

お申し込み先：丹波篠山市人権・同和教育研究協議会 事務局

電話/FAX：079-593-1260(月・火・木・金)

※会場は3カ月前に予約します。変更になる場合があります。HP等でご確認ください。



みんなの人権を考える映画会

入場無料!

映画『破戒』 **とき** 2023年8月11日(金・祝日) 14:00～

ところ 丹波篠山市民センター・多目的ホール

全国水平社創立大会から100年をむかえ、それでもなお人々の心から差別をなくす難しさに声をあげるため、島崎藤村の長編小説である『破戒』が映画化されました。

主人公の丑松は、父親に「被差別部落出身であることを決してうちあけるな」と、その戒めを守って生きてきました。しかし、周囲の偏見と差別が次第に彼を追い詰め、「なぜ自分の故郷を語れないのか」と苦悩し、その戒めを破ることになります。

この映画を通して、差別の苦しさや、誰もが当事者であることを学び、部落差別をはじめ、あらゆる差別のない社会をめざしましょう。無料でご覧いただけますので、是非ご来場ください。

市同教フィールドワーク参加者募集!

在日コリアンの生き方から学ぶ ～ウトロ平和祈念館見学・フィールドワーク～



ウトロ地区(宇治市)は日本社会から置き去りにされた韓国人のまちでした。そこでは様々な困難に直面しながらも声を上げ続けた人々と、ウトロに寄り添ってきた日本・在日・韓国の市民が協力して、人々の尊厳と生活を守ってきた歴史があります。そうした人々の姿を通じて人権と平和の大切さを学びましょう。是非ご参加ください。

行 程 西紀支所発→ウトロ平和祈念館(宇治市)→昼食(韓国料理お弁当)
→講話・施設見学(ガイド付き)・周辺フィールドワークなど→西紀支所着

日 時 8月27日(日) 10:00～17:20頃

参加費 1,500円(昼食代、入館料等)

定 員 20名(先着順)

申し込み受付 7月3日(月)～7月28日(金)

申し込み先

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会(丹波篠山市役所西紀支所3階)
月・火・木・金 9時～17時 TEL・FAX 079-593-1260



研修に「丹波篠山の人権史跡」を巡る フィールドワークをしてみませんか?

人権史跡を知ることは、私たちの先人の生き様を知ることです。

市内には、過酷な藩政に抗った人々の足跡や生活向上のために立ち上がった人々の碑、教育や文化の拠点など様々な史跡があります。

そうした史跡を巡ってみませんか? フィールドワークを希望される団体には、丹波篠山市同教より、半日5千円の講師料を補助します。詳しくは丹波篠山市同教までお問い合わせください。

主な行事予定

***7月29日(土)**

兵庫県人権教育研究大会 丹波地区大会
会場: 四季の森生涯学習センターとその周辺施設

***11月25日(土)、11月26日(日)**

全人教研究大会兼兵人教中央大会
明石市、神戸市、大阪府、京都府

***12月9日(土)**

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会研究大会
会場: 丹波篠山市立田園交響ホール



会報編集委員紹介

安井 聡博 西田 こす枝 中井 慎太郎 森田 貞二

本年度も、上記の4名の委員で編集を行います。
会報が皆様に親しまれ、人権をより身近なものに感じていただけるよう、紙面づくりにとりくみます。

※掲載しております研修会やイベントは、気象状況や新型コロナウイルス感染拡大状況により、変更や中止になる場合があります。市同教ホームページまたは電話(月・火・木・金/9時～17時)にてお問合せください。

暮らしの中から

「44年間の後悔」

これまでの66年間の人生をふりかえれば、多くの方々のおかげで、なんとか、ここに、たどり着くことができました。そんななかにおいて、私が知りあった「あの方」との不誠実なお別れから、44年の歳月が流れました。このような状態に陥ったのも、「あの方」の心の内を精一杯理解しようと努めなかったからです。



「あの方」と私との出会いは、『『しょうがいしゃ』解放運動』の集会の場でした。東北の地での出会いが契機でした。「あの方」には「しょうがい」があり、私は朝食を作り、食事を一緒にするのが私の日課となりました。学生時代でもあり、接する時間は十分にありましたが、『『しょうがいしゃ』の自立を確かなものにするためには、これから、どうすればいいのか。』といった課題解決に向けて、「あの方」と、とことん語り合うようなことは、一度もありませんでした。しかし、日常のなかで、何気ない会話を交わし合うだけで、とても幸せに思えました。やがて、大学を卒業する日を迎え、私は、東北の地を離れ、兵庫に戻りました。「あの方」とのお別れは、風前の灯が、消え入るような寂しいものでした。一緒に時を重ねているという充足感に満ちた日々が、出会う回数や日数が過ぎ去るなかで、互いの思いに寄り添う気持ちが薄らぎ、些細ないざこざが重なり、幸せだった気持ちががしだいに失せ、憔悴感だけが蓄積されていったのです。私の『『しょうがいしゃ』解放運動』に対する、中途半端な姿勢の成れの果てでした。

44年が経ち66歳を迎えた現在においても、「あの方」の食事を作っていたころのことを、幾度も思い出し、私の人生を恥じいるばかりです。なぜ、もっとお互いの心の奥底にある深い思いを語り合い、理解し合い、寄り添おうと努めなかったのか、という後悔ばかりで、「愚のままだに漂うしかないのだろうか」という自虐の念がふつふつと去来するばかりです。しかし、そんなある日、新聞紙上で掲載されていた一編の詩が、私の目に飛び込んできました。「いちばんすきなものをみつけたら、たいせつにして、しぬまでいきる」という詩に綴られた言葉に触れたとき、懸命に求めておられた、「あの方」の「いちばんすきなもの」を見つける旅に、もう一度、出かけたいという衝動が、私の心の奥底からわいてきました。

「あの方」と大学を卒業して以来、これまで一度も連絡を取り合うこともなく、44年間の歳月が流れました。私の心に、「精一杯お前は、生きているのか! 己は、これから、どう生きたいのか! 己を、どうつくっていききたいのか!」、自分のあるべき姿を、今一度、見つめている昨今です。

森田 貞二

編集後記

先日、今年度のフィールドワークとして予定しているウトロ平和祈念館の視察に行ってきました。在日コリアンが多く暮らしている宇治市のウトロ地域は、2021年にA青年によって放火されたことでも知られています。A青年はインターネットの偏った情報でウトロ地区を知りました。

ウトロ平和祈念館で、副館長の金さんは、「ウトロの人たちは、A青年を憎んではいません。A青年がウトロの人と出会い、ウトロを正しく知っていたら、犯罪で人生をゆがめてしまうこともなかっただろうと、むしろ哀れみの気持ちをもたれています」つづけて金さんは「無知と無関心が差別を生み、多くの人との出会いが差別を無くします」と話されました。

差別解消には、正しく知る事、多くの人と出会い多様性を認め合う事が大切だと、あらためて思いました。ウトロ平和祈念館へのフィールドワークは8/27に予定していますので、是非ご参加ください。

役員紹介

会 長	五十山田潤
副 会 長	細見 悟
	植野 豊
	藤田 泰造
	瀧山 玲子
	高森 俊広
会 計	原 幸弘
会計監査	青木 直
	辻井 昭文
顧 問	溝畑 賢
理 事(団体選出)	44名